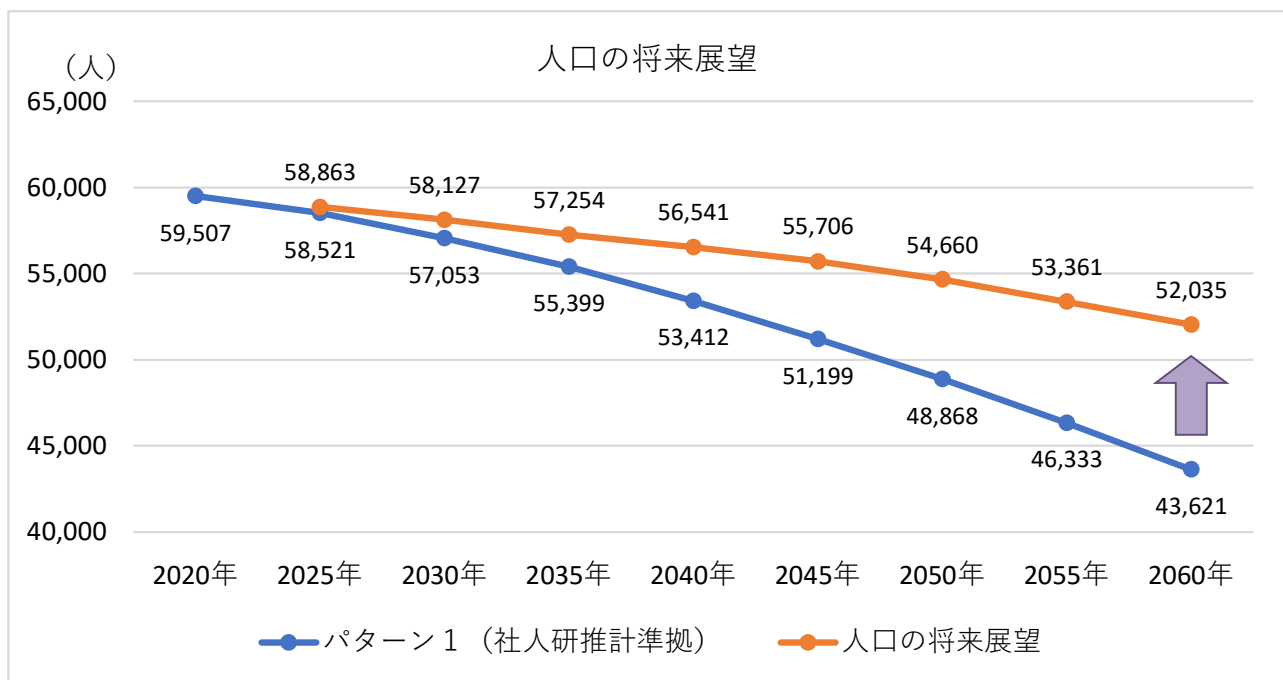


第三期下野市デジタル田園都市国家構想総合戦略 体系について

1 第三期総合戦略の前提条件等

(1)人口の将来展望

- 国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」)が、2020(令和 2)年の国勢調査を基準に推計した下野市の将来人口は、2060(令和 42)年に 43,621 人となりますが、市民の結婚・出産・子育ての希望をかなえ、若年世代の転入を促進するとともに、市民の幸福度の向上及び人や企業に選ばれる自治体を目指す取組により、本市の人口の将来展望を 2060 年で 52,035 人と設定します。



(2)地域ビジョン

- 第三期総合戦略は「第三次下野市総合計画」の前期基本計画と計画期間を同じくすることから、共通する地域ビジョンの実現に向けて整合のとれた施策展開を図っていく必要があります。
- そのため、本戦略における地域ビジョンは、「第三次総合計画」の将来像を踏襲します。

【目指す2つの方向性】

下野市では、これまで第二次総合計画で将来像として掲げてきた「幸せ実感都市」の実現に向けて、様々な取組を行ってきました。その成果は、「住みやすいまち」として一定の評価を得ています。

第三次下野市総合計画の将来像を設定するに当たり、「誰もが幸せを感じられるまち」となるよう、またそのためには「暮らしやすいこと」「働く場所があること」が基本と考えられることから、以下を目指す2つの方向性としします。

誰もが幸せを感じられるまち

一人ひとりが幸せを感じることで、周囲の人々にも幸せの輪が広がり、幸せの温かさが伝わるまちづくりを目指す。

暮らしたい、働きたいまち

地域の価値を高め、人や企業の移住・定住・誘致を促進し、地域の持続的な発展につなげるまちづくりを目指す。

【将来像(協議審議中)】

2つの方向性を踏まえて、だれ一人とり残されることなく、地域に誇りと愛着を感じて、心豊かに生きられるまちになるよう、第三次総合計画で目指す将来像を掲げます。

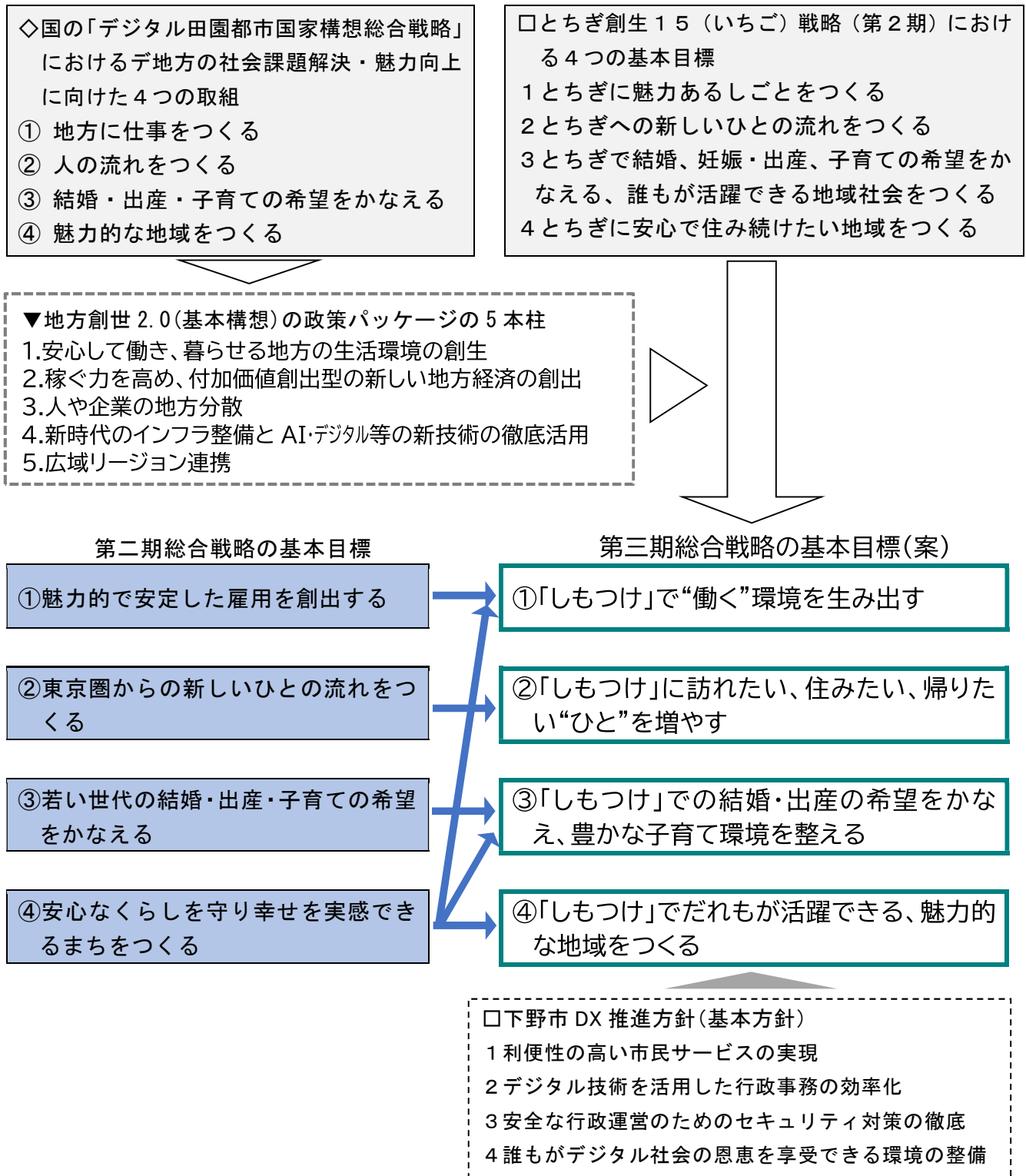
◆案1 しあわせ うまれる しもつけし

◆案2 支え合い しあわせ うまれる しもつけし

◆案3 しあわせ うまれる 下野市 しもつけ くらし ウツテツケ

(3)基本目標

- 基本目標については、第二期総合戦略の基本目標との継続性に配慮しつつ、国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」及び地方創生 2.0(基本構想)における政策パッケージの5本柱とともに、県総合戦略「とちぎ創生15戦略(第2期)」の基本目標を勘案して下図の通り設定します。



2 第三期総合戦略体系（案）